

地域住民と学生主導型アドバンス・ケア・プランニング ～未来を語ろう人生会議 third stage～



島根県立大学看護栄養学部看護学科
加藤さゆり

背景

アドバンス・ケア・プランニング (ACP) 「= 人生会議」

=健康なときから人生の最終段階の医療を見据えた家族や周囲の人たちとの話し合い



○これらは、人生会議とは何か、その意義など、ACPの要素を網羅しつつ、地域住民や医療介護専門職者の意見を反映した内容

○しかし、冊子の存在は未だ地域住民に浸透しておらず、啓発活動とともに人生会議の場が必要である

「ACP=人生会議って何だろう？」
(マンガ冊子)
島根県作成, 2021年

「あんしんノート
(出雲市版終活支援ノート)」
出雲市作成, 2019年

組織とこれまでの活動

<活動組織>



「人生会議・まめな会」
2022年発足
島根県出雲市・松江市・雲南市
在住の40～80歳代男女会員26名

- 「人生会議・まめな会」は、生涯健康で豊かな人生を生ききることを目的に、地域住民有志により発足
- エンド・オブ・ライフケアに関心のある看護学科学学生を活動メンバーに加えた「ACP地域貢献推進プロジェクト」を始動
- 地域住民と学生主導型の人生会議の活動および発信で出雲全域、ひいては島根県における人生会議の普及につなげる

『ACP地域貢献推進プロジェクト』

○活動目的：出雲地域や県西部住民の人生会議の認知度を高める

○活動内容：
2022年度：ACP講演会や人生会議カフェの定期開催

2023年度：劇団「人生会議・まめな会」旗揚げ
公演タイトル「セチテ・倒れて・キーキー車」

出雲市生涯学習講座および市内各地区からの依頼で、
寸劇公演を開催した(計3回公演)

↓ 継続的な取り組み

2024年 活動報告



【活動メンバー】11名

看護学科3年
小前陽菜・酒井輝美
周藤愛里・砂流榛果
福本佳正・松浦優羽

看護学科2年
石飛葵・伊藤光希
景山萌栄・椽木凜
寺井咲希子

『ACP地域貢献推進プロジェクト ～third stage～』

活動目的

主に島根県西部住民の人生会議の認知度を高める

活動内容

劇団「人生会議・まめな会」による
寸劇公演「セチテ・倒れて・キーキー車」

日程	内容
5月25日(土)	第1回プロジェクト集会：昨年度活動報告・今年度活動計画
6月26日(水)	第2回プロジェクト集会：活動計画に沿った運営スケジュールと役割決定
7月1日(月)	ACP寸劇上映(昨年の公演DVD)と講演会(長昌山大慶寺本堂)
7月27日(土)	ACP寸劇上映(昨年の公演DVD)と人生会議カフェ開催(出雲Cラウンジ)
9月7日(土)	人生会議カフェと音楽会開催(稗原コミュニティセンター)
9月9日(月)	第3回プロジェクト集会：寸劇生公演に向けた小道具作成
9月25日(水)	ACP寸劇上映(昨年の公演DVD)と講演会(久多美コミュニティセンター)
10月2日(土)	第4回プロジェクト集会：寸劇生公演に向けて演者および裏方役割決定
11月3日(日)	寸劇公演に向けた通し稽古(出雲C体育館)
11月16日(土)	人生会議普及啓発講演会(邑南町主催)にて、寸劇公演・意見交換会
R7年2月末予定	人生会議カフェと抹茶体験会開催予定(稗原コミュニティセンター)

これは、史郎さんとその家族の人生会議にまつわる物語です。人生会議とは、アドバンスケアプランニングの愛称で、自身が大切にしていることや望んでいること、どこでどのような医療・ケアを望むかを前もって考え、周囲の信頼できる人と話し合い共有することです。物語は実際にあった出来事をもとに脚色したフィクションです。史郎さんが救急車で病院に運ばれてから、家族がどんな決断をしたか、果たしてその決断がどうだったのか…

<邑南町講演会参加者(57名)の感想(一部抜粋)>

■ 寸劇について

- ・背景なども分かりやすかったし、演じられた方がプロでないため身近に感じられた。
- ・声もよく聞き取れ状況がよくわかった。本人の思いを「救急車呼んで」からくみ取ることはできるか。医師の話しのもっていき方もある。
- ・送られる人の思いを尊重する点と正解を見出すことの難しさがよく表れていた。
- ・何度かACPの寸劇を見たが今までにないパターンで新鮮だった。突然の別れも考えておかなければならないとわかった。
- ・ポイントをついている。欲をいえばピンマイクを使われたらよかった。

■ 全体的な感想

- ・自身の実体験からの講話はより心に響いた。同じようなことは誰でも体験しているが個人ではなかなか普及活動までできないのでこういった講演はもっと自治体、医療機関等で普及活動されたい。
- ・あんしんノートは聞いてほしいと思ったので(ただで)助かりました。
- ・考えが変わって良いとのことでした。話し合おうと思う。
- ・自分も昨年夫を亡くしどんなに辛い日を送っているか、夜も眠れなかった。今日の話聞かせていただき心が救われた。
- ・質疑のコメントが納得いくものだった。
- ・禅問答の世界、これまたリアルだった。



邑南町人生会議普及啓発公演 11月16日

倫理的配慮

顔写真およびアンケート結果公表について、人生会議まめな会と学生活動メンバーおよび講演会参加者の承諾を得ています

【結果・考察】

- ◆計3回の講演会で95名の参加があった
- ◆主な活動目的である県西部での寸劇公演が実現した
- ◆講演会参加者の満足度は高かった(「大変良かった・良かった」95.0%)
- ◆寸劇は動画視聴よりも生公演の方が参加者の心をうつ
- ◆寸劇だけでなく、参加者同士の語り合いが有意義だった
- ◆参加者同士の語り合いはグリーフケアの一助にもなる